

谷口 元 (たにぐち・はじめ) 先生

一般社団法人日本音楽出版社協会 会長

【最終学歴】 米国 Belmont College, Commercial Music 学部卒業

【主要経歴】

- 1986年 8月 株式会社エイプリル・ミュージック(現 株式会社  
ソニー・ミュージックアーティスツ)入社、出版部所属
- 1994年 10月 エイベックス・ディー・ディー株式会社  
(現 エイベックス・エンタテインメント株式会社)入社、  
国際業務担当部長
- 1995年 3月 株式会社プライム・ディレクション 取締役
- 1996年 7月 エイベックス・ディー・ディー株式会社 取締役  
国際本部国際部長
- 1998年 7月 社団法人 音楽出版社協会 理事
- 2001年 10月 社団法人 日本音楽著作権協会(現 一般社団法人 日本音楽著作権協会) 理事 (現職)
- 2004年 6月 社団法人 音楽出版社協会 常務理事
- 2005年 4月 エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社 取締役 国際戦略室長 兼 知財戦略室長
- 2009年 11月 社団法人 音楽出版社協会 理事副会長
- 2010年 4月 エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社 代表取締役社長 (現職)
- 2010年 6月 社団法人 音楽出版社協会(現 一般社団法人 日本音楽出版社協会) 会長 (現職)
- 2010年 7月 財団法人 音楽産業・文化振興財団 理事
- 2010年 9月 財団法人 音楽産業・文化振興財団 副理事長 (現職)



### 《講義概要》

本講座の寄附団体のひとつである一般社団法人日本音楽出版社協会の会長谷口元氏が、音楽出版ビジネスの課題について講義を行った。

講義では、音楽出版ビジネスの現状と今後の課題について、「音楽出版社の存在意義」「次世代メディア」「国際展開」の3つの項目に分けて、詳細な資料を提示しながら分かりやすく説明した。まず、音楽ビジネスを考える上で必要な音楽著作権の概要とその重要性について言及。さらに、音楽出版社やJASRACの役割、音楽業界の構図についても具体的に説明し、学生へ幅広い知識を与えた。

また、今後の音楽出版ビジネスについて、あらゆるデジタルと音楽の親和性を高めてビジネス範囲を拡大することやマーケットの国際化が重要であることを示し、世界の音楽市場の現状についても解説した。イギリスやアメリカのように、日本も知的財産に対する認識を高め、音楽など日本の文化産業を海外へ発信し、世界へ市場を広げていく必要があることを言及した。音楽出版ビジネスの発展には、国際展開が重要なポイントとなることを学生は実感した。

## 《受講生の感想》

●著作権について多少は知っているつもりでしたが、いったいどのような基準で著作権が生じるかなど、十分に理解できていなかったと痛感しました。日本は著作権の存続期間が他国と比べると短いということを知り、日本もアメリカのように期間を延ばすべきではないかと思いました。また、日本の音楽が世界でもっと親しまれるようになってほしいと思いました。 立命館大学・産業社会学部・1回生

●日本の市場の大きさが他国と比べてかなり大きなものであることを視覚的に資料で見たことでよく分かりました。海外展開については、CDを重きに置くのではなく、コンサートなど日本と市場規模の大きなところに視点を合わせていくことが重要だと感じました。アジア進出もよく言われていますが、他の国にも進んでいくルートを考えていくべきだとも思いました。 立命館大学・映像学部・4回生

●日本における権利の保証が諸外国に比べて期間が短いというのは知っていましたが、その期間によってクリエイターなどが流出してしまうという方向に繋がるというのは初めて知りました。日本は権利において世界的には後進国と感じたので、これからは優秀な人材の流出を防ぐためにも、色々と考えていかなければと思います。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●今、レコード産業の売上が下がってきているが、CD、音楽配信だけが音楽産業なのではなく、映画、CM、テレビでのBGMで使ってもらうことで売上を伸ばしたりすることができることを知りました。新聞・雑誌など音楽と一見関係がなさそうなものに音楽をどのようにリンクさせていくのか、そして、CDの売り上げが下がっている今、どのように音楽産業を発展させていくか考えるのもとても面白そうなので、考えていきたいと思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●日本も知的財産を大事にしていくべきというのが印象的でした。日本にも誇れる作品が多くあると思うので、大切にしていきたいと思います。これを可能にするのは、私たち国民の気持ち、考え次第だと思うので、みんなが日本の作品を大切にしていけばいいと感じました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

●音楽には多くの権利が含まれており、その権利を守りながら、かつ音楽ファンに楽しんでもらえるようにすることはとても難しい。違法なダウンロードや配信とどう戦うのか。デジタルのマイナス評価を排除するのか、どうにか利用して利益を出すのか、考えさせられる内容でした。

立命館大学・映像学部・4回生

